

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：13201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24660022

研究課題名(和文) 妊娠期からの産後うつ発症予測基準の開発とその有効性の検証

研究課題名(英文) Verification of the development and its effectiveness of postpartum depression onset prediction criteria from pregnancy

研究代表者

笹野 京子 (KYOKO, SASANO)

富山大学・医学薬学研究部(医学)・准教授

研究者番号：60363868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、産後うつを妊娠期から予測するリスクアセスメントスケールを開発することと、その信頼性と妥当性を検証することにあった。

(調査1)臨床助産師のフォーカスグループインタビューおよび(調査2)文献検討の結果、妊娠期からのリスク要因として高齢出産、初産婦、精神疾患既往、低所得者、夫の両親についての不安、夫の育児参加への不安、赤ちゃんの世話の経験、夫の態度、その他のソーシャルサポート不足であった。今後調査をすすめアセスメントツールの重みづけを行う予定である。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study, the method comprising: developing a risk assessment scale for predicting postpartum depression from pregnancy, was to verify the reliability and validity.

Clinical midwife focus group interviews and the results of the literature review of, elderly birth as a risk factor from the pregnancy, primipara, mental illness history, low-income people, and anxiety for the parents of her husband, anxiety to the child care participation of her husband, baby care experience, husband of attitude, was the other social support shortage. It is planned to carry out the weighting of assessment tools recommended for future research.

研究分野：母性・女性看護

キーワード：産後うつ 妊娠期 予測基準 開発 有効性

1. 研究開始当初の背景

産褥期は、さまざまな精神的問題が生じやすく、母子の精神保健の観点からも重要視されてきた。出産後 3~4 日目ごろに出現するマタニティブルーは出産した母親の 4~50%、出産後 4~6 週間で発症する産後うつは 10~15%にのぼると指摘されている。厚生労働省等が母子保健国民運動計画「健やか親子 21」において、産後うつの発症率の減少が重点目標となっている。その取り組みとして地域では、産後に新生児訪問などにエジンバラ産後うつ病評価尺度（以下 EPDS と略す）のスクリーニング調査を取り入れ早期発見・早期介入を目指している。2009 年度の調査報告（厚生労働省：2009 年）では、第 1 回中間報告の EPDS9 点以上が 12.8%と比べて 10.3%と減少傾向が確認されてきたものの、画期的な効果とまでは至っていない。予防的メンタルヘルスが叫ばれている今、産後うつについても早期発見・早期介入にとどまらず予防的介入システムを構築することが求められるところである。それには現在のような産後からの介入ではなく、妊娠期から予防的介入を行うことが望ましいと考えられる。それが可能となれば妊娠全期間を通して助産師が予防的介入をすることが可能となる。しかし、現在助産師が用いることができる産後うつを妊娠期から予測するアセスメントスケールが開発されていないのが現状である。

2. 研究の目的

産褥期に発症する産後うつを妊娠期から予測するリスクアセスメントスケールの開発と信頼性と妥当性の検証をすること

3. 研究の方法

・平成 24 年度：産後うつの発症要因の抽出

外来と病棟を兼務するエキスパート助産師数名を対象に産後うつを発症する危険性が高いと認識する特徴についてのアセスメント視点と実際の発症状況をフォーカス・グループ・インタビュー 方法を用い調査を行産後うつ発症要因を明らかにする。

・平成 25 年度：妊娠期から予測する産後うつリスクアセスメントスケールの作成

・平成 26 年度：妊娠期から予測する産後うつリスクアセスメントスケールの信頼性と妥当性の検証

4. 研究成果

1) 妊産褥婦に継続的にかかわる助産師の産後うつを予測する視点とそのケア

(1) はじめに

本研究は妊産褥婦に継続的にかかわる助産師の経験知から妊産褥婦の産後うつを予測する視点とそのケアを明らかにすることを目的とする。

(2) 方法

対象は妊産褥婦に継続的にかかわりかつ保健所からのハイリスク妊産褥婦への訪問依頼を受けている助産院を開業している助産師を対象とした。対象者には事前に研究協力を書面で依頼し、同意が得られた助産師に改めて研究の趣旨や倫理的配慮などを文書と口頭で説明し文書にて研究への同意の署名を得た。データの収集方法はフォーカス・グループ・インタビューおよびアンケートで行った。得られたデータは内容分析にて分析した。本研究は金沢医科大学倫理委員会の承認を得て実施した。

(3) 結果

研究参加者は 7 名、平均年齢は 48.3 ± 7.3 歳、平均助産師歴は 21.1 ± 11.5 年、平均開業年数は 12.4 ± 5.9 年であった。分析の結果、助産師が妊産褥婦とのかかわりの中で産後うつを予測する視点は、妊産褥婦の言動の

端々に感じる【心のこわばり】、妊娠・出産・育児に伴う夫とのずれに気づく【夫との不協和音】、妊産褥婦を支えるシステムの弱さを危ぶむ【脆弱なバックボーン】の3つであった。そのケアは、胎児の存在を意識するようにかかわる【妊娠中から母性を育てるケア】、不安に寄り添いその都度解決するようにかかわる【心に寄り添うケア】、身体を癒すことで心を開放する【心をほぐすケア】の3つを実践していた。これらのケアは一人の助産師が継続して関わることで妊産褥婦の心を開放し、心に寄り添うケアができると感じていた。しかし、また一方で妊娠期に予測できる視点があったとしても妊産褥婦が心を開く契機となるのは身体ケアが多い分娩期のケアを経た後が多いと感じていた。

(4) 考察

開業助産師は、妊産褥婦と継続的にかかわる中で産後うつを予測する視点とケアの実践を行っていた。その中で継続して妊産婦に関わることで対象の心を開放し、心に寄り添うケアの重要性が示唆された。これらのことより妊産褥婦の心理的・社会的背景を探る手だてを開発することが妊娠期から産後うつの予測を可能にすると考えられる。また、妊産褥婦に一番身近な助産師が実現可能な産後うつへの予防的介入方法の開発が可能になると考えられる。

(5) 結論

開業助産師は産後うつを予測する視点として【心のこわばり】【夫との不協和音】【脆弱なバックボーン】、そのケアとして【妊娠中から母性を育てるケア】、【心に寄り添うケア】、【心をほぐすケア】が見出された。そして、助産師が継続的にかかわることで実現可能な産後うつへの予防的介入方法を開発する可能性が示唆された。

(2) 以後の研究については、現在進行中

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

笹野京子、落合富美江、山崎智里、北濱まさみ、齊藤佳余子、長谷川ともみ、粟生田友子:妊産褥婦に継続的にかかわる助産師の産後うつを予測する視点とそのケア、日本助産学会誌、27(3) 254、2014.

〔学会発表〕(計 1件)

第28回 一般社団法人 日本助産学会学術集会(長崎) Title:妊産褥婦に継続的にかかわる助産師の産後うつを予測する視点とそのケア(ポスター)、2014.3.23.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹野 京子 (SASANO Kyoko)

富山大学・医学薬学研究部(医学)・准教授

研究者番号:60363868

(2) 研究分担者

落合 富美江 (OCHIAI Fumie)

四日市看護医療大学・看護学部・教授

研究者番号:20295554

山崎 智里 (YAMAZAKI Chisato)

金沢医科大学・看護学部・助教

研究者番号:00550948

坪本 他喜子 (TUBOMOTO Takiko)

金沢医科大学・看護学部・助教

研究者番号:50566859

北濱 まさみ (KITAHAMA Masmi)

金沢医科大学・看護学部・助教

研究者番号:60636009

長谷川 ともみ (HASEGAWA Tomomi)
富山大学・医学薬学研究部 (医学)・教授
研究者番号:80262517

松井 弘美 (MASTUI Hiromi)
富山大学・医学薬学研究部 (医学)・准教
授
研究者番号:60363868

二川 香里 (FUTAKAWA Kaori)
富山大学・医学薬学研究部 (医学) 助教
研究者番号:60363868